

会 議 録

1 名 称 第3回「(仮称)北九州市DX推進計画」策定に関する懇話会

2 議 題 等 (1) 前回(第2回)での主な論点の整理
(2) 「(仮称)北九州市DX推進計画」たたき台について

3 開催日時 令和3年8月31日(火) 10時00分～11時30分

4 開催場所 北九州市役所本庁舎3階およびオンライン(Web会議)

5 出席した者(構成員)の氏名

遠藤 直人	遠藤 禎幸	隈本 覚(座長)
郷田 郁子	重永 酉子	勢一 智子

6 経過(構成員発言内容)

【事務局説明】

(1)「前回(第2回)での主な論点の整理」の説明(資料P1から6)

【構成員意見】

- BPRを進めるにあたっては、例えば、業務を集約化・効率化して生まれた時間を、戦略的な業務に使うなど、その目的を明確にすることが必要。また、実感を持って取り組めるよう、わかりやすい目安・目標を考え、共有することが必要。
- EBPMや、オープンデータの活用などは、以前から進められてきた取組であるが、DXによってより早く進むことが期待できる。
- 内部事務の効率化などが進み、職員が市民センターなど市民に身近な場所で行政サービスを提供することができるようになることで、高齢者などへのデジタル・デバイド対策ができるようになる。
- オープンデータについては、市民のニーズとうまくマッチできる仕組みや必要なデータを探しやすい仕組みが大切。

【事務局説明】

(2)「(仮称)北九州市DX推進計画」たたき台について(第2回資料P13から34)

【構成員意見】

- 17ページの、市が目指す姿について、M V V（ミッション、ビジョン、バリュー）の考え方で整理を図ってはどうか。
- 「デジタルで快適・便利なまち」を目指すことがミッション（北九州市が実現したいこと）、「北九州市民でよかったと思えるような市役所の実現」をビジョン（目指す姿）、「常により良いサービスを追求する」「市民に寄り添ったサービスを素早く提供する」「働きがいのある働きやすい職場を実現する」の3つをバリュー（行動指針）としてはどうか
- 北九州「市」としてのD Xと北九州「市役所」としてのD Xが混在しているように見える。市の目指す将来像と、その中での市役所の役割を分かりやすく整理する必要がある。
- 将来を見据え、今から仕事のやり方を変えていかなければならないことを、今回の計画をきっかけに職員に発信していくことも重要。
- 改善のイメージがないと、改善の余地があることに気づけない。外部人材の活用だけでなく、職員が短期間でも民間企業を体験して、それを持ち帰ってもらうという考え方もあってよいのでは。
- 行政における先例主義は、D Xを妨げる要因となる。これを変えることが非常に重要。

6 用語集

D X（デジタルトランスフォーメーション）

データとデジタル技術を活用して、サービス等を変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、文化、風土を変革し、生活をあらゆる面で良い方向に変化させること。

デジタル・デバイド

インターネットやパソコン等の情報通信技術（I C T、I T）を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差のこと。

7 問い合わせ先

デジタル市役所推進室 デジタル市役所推進課
電話番号 093-582-3557